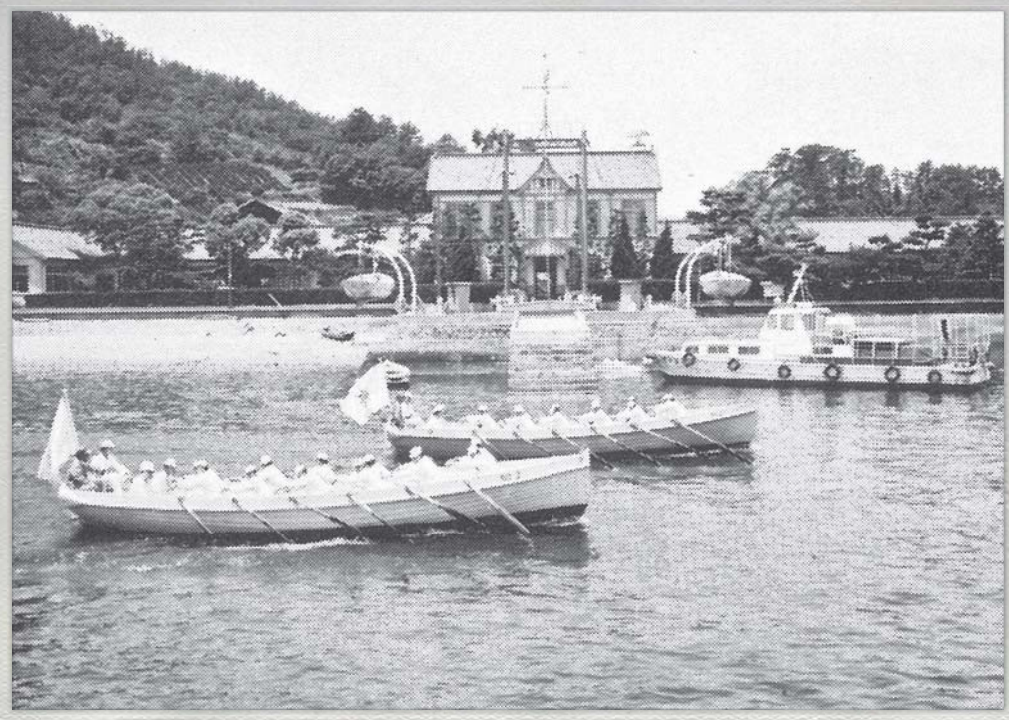




このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



懐かしの1枚

国立粟島海員学校

明治30(1897)年に日本最初の海員養成校として設置された村立粟島海員補習学校が国立粟島海員学校となる。昭和62(1987)年に廃校になったが、その間に多くの船乗りが育っていった。写真は、カッター(大型手こぎボート)の練習風景。

「思い出のページ」

粟島海員学校の近くに住み、自身も同校を卒業。昭和55年から廃校までの8年間、教官として多くの技術を教えていた徳重宏さん(80)に当時を振り返ってもらいました。

海員学校卒業後、海運会社に入社し、航海士として世界中を訪問しました。海員学校の教官として、技術と経験を未来の船乗り

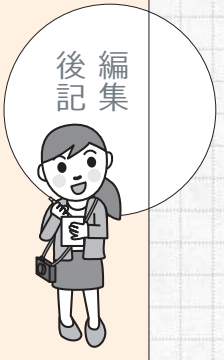
に伝えていく側に立ったのは、37歳の時やったな。船の位置を測定する方法とか船の操縦、ロープの結び方、帆の縫い方なんかを教えたよ。全寮制だから、子どもたちはずっと粟島でおったんで、島から出る機会はない。ほとんどなかったな。写真にあるカッターに乗って粟島から積

までこいで、紫雲山に登って、またカッターで帰ってくる訓練をしたら、みんな大喜び。嫌と言うほど毎日のようにカッターに乗って練習してるのに、どこかに行けるのが嬉しかったんでしようね。

廃校の時は、島の人たちもとても寂しがってましたね。小・

中学校と海員学校、島民と一緒にしていた運動会は粟島の一大イベントで、島全体の一体感があったよ。授業では防火訓練もやってたから、島内で火事があったときには早く駆けつけて消火作業をしようとしたし、島民と生徒のつながりはとても深いものがあつたからなあ。

立派に羽ばたいた卒業生が今も来てくれますよ。学校だけでなく、粟島の人たちとの思い出が粟島へ足を運ばせよんかもしれんね。



取材をしたヤングシルバーの皆さんはとにかくパワフルで魅力的。こちらが取材を忘れ、すっかり虜になってしまいました。これまでの人生で培ってきたものを育ててくれた地域のために返そうとするまっすぐな姿に、ふるさとへの深い愛を感じました。